

福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録 要旨

■日 時：平成26年9月29日（月）15：00～17：00

■場 所：アクロス福岡2階セミナー室1

■委員紹介

新任委員の福岡市PTA協議会 副会長 藤野二郎委員、九州電力株式会社 地域共生本部 環境管理グループ長 榊原 紀孝委員を紹介。

■議事1:副会長指名

福岡市環境教育・学習計画推進協議会設置要綱第5条第4項に基づき、会長が荒瀬委員を副会長に指名。

■議事2:福岡市環境教育・学習計画(第二次)の検証について

(事務局) 福岡市環境教育・学習計画(第二次)について、資料1及び補足資料1-1から1-3に基づき、環境教育・学習に関するアンケートやヒアリングの結果、第二次計画が示す基本的方向ごとの検証結果を説明。

◇各委員からの主な意見

〈アンケート・ヒアリングについて〉

- ・今後環境活動に参加したいと考えている人が増えているという結果には期待を持ったが、「環境活動、団体の活動に参加したくない理由」の回答を見ると残念な気持ちになった。
- ・平成16年度と平成24年度の調査が比較可能なのかを検証する必要がある。

〈第二次計画の検証について〉

- ・行政ベースの数値の評価以外に、連携、新たなプログラムの提供、先駆的な取組、人材育成とその還元など、多段階の評価ができないか。
- ・アンケートの評価と個々の事業の評価をどう組み合わせるのかが分かれば、議論しやすい。
- ・評価の重みづけなど整理の仕方を考えるべき。
- ・基本的方向6から10までのネットワーク化が弱く、次の計画ではこの点に重点を置かなければいけない。
- ・ネットワークづくりについて、もっと具体的にいろんな提案ができるようなアイデアを絞って計画を作っていくことが必要。

〈環境教育・学習について〉

- ・世の中の情報が溢れ過ぎていて、環境に関する情報に触れる機会が少なくなったと感じる。
- ・環境問題が自分事になりにくい情報になってきている。
- ・社会や経済にいかに関わりが深まっているのかという視点を環境教育、あるいは環境教育・学習計画に取り入れることができれば、企業を含めたつながりが見え、関心が持たれやすくなるのではないかと。
- ・普通の社会人や普通の高校生、普通の大学生が環境教育・学習の対象として抜けている。
- ・団体同士の横の連絡がなかなか取れない状況が少しあったが、やはり横の連携は重要である。
- ・普通の人が普通に環境問題を理解できるような環境教育・学習があれば、その延長線として活動する団体への理解も深まる。
- ・基本的なエコに対する子どもや親の意識はずいぶん良くなったが、行動する人としない人の二極化が進んでいる。
- ・各々が、それぞれの立場で環境の取組を行ってはいるが、それが結ばれていないため、全体として環境に対する想いや実践力が上がらない。

- ・一番大事なことである、全ての子どもたちに、何らかの環境、自分の住んでいる環境に目を向けさせることができるのは、学校教育である。
- ・学習したことを必ず自分の身の回りの自然や環境に結び付ける意識を持った教員を育てたり、子どもたちのベースとなる感性を育てる教育を継続する必要がある。
- ・自分自身の目の前に迫った危険という意識がないことが、今の環境問題を分かりにくくしている。
- ・ユネスコスクールに取り組んだ学校の「環境学習を通して、自分の行いが身の回りの環境にどんな影響を与えるかを考えて行動する生徒が出てきた」という意見は一つの参考になる。
- ・子どもたちには知識はあるが、それを生かして実践する場が少ない。
- ・行政にも物を言うし、実際に活動している人にも物を言う中間的な人たちを集めた窓口がどこかにあれば、より横断的なことができるのではないか。
- ・NPOがお互いに連絡を取り合うために、どこかに集まる場所があればいい。
- ・北九州市は、今年から10大学連携で環境教育に取り組み、単位も出る仕組みを作っているが、そういう仕組みがあるとよい。
- ・NPOや専門家が用意した環境教育のプログラムやプレゼン資料を、学校の教員が使えるようにすると、教員の負担が少なく環境教育を行うことができる。
- ・環境教育研究会ときちんと知識を持ったNPOが協力してプログラム作りの作業ができる場を作ると、効果が上がるかもしれない。
- ・実際に目で見て分かる、自分の生活に関係していることを、公民館の講座で取り組んでいけるとよい。また、コーディネーターやNPOの専門家をうまく活用できれば、もっと効果的な啓発活動につながる。

■議事3:まもる一む福岡の再構築について(報告)

(事務局) まもる一む福岡の再構築について、資料3に基づき、施設の現状、環境教育・学習計画における位置づけ、過去の協議会での意見、再構築にあたっての課題と方向性を報告。

◇各委員からの主な意見

〈課題について〉

- ・誰を対象にしているのか、どういう人を呼びたいのかが、はっきりしない。
- ・対象者の視線を意識した展示になっていない。
- ・少年科学文化会館は、休みの前に保護者にもパンフレットが配られるが、まもる一む福岡のパンフレットを見ることがないので、知る機会が少ないのではないか。
- ・大人が楽しめる施設にはなっていない。

〈改善のためのアイデア〉

- ・まもる一む福岡の存在を価値づける(例えば、市内の小学校5年生は必ず見学する等)。
- ・まもる一む福岡と学校現場をつなぐ人材を入れると、子どもの視線で意見が言えるので、視野が広がってくる。
- ・まもる一む福岡のホームページに企業の環境活動のリンクを貼る。
- ・まもる一む福岡に来ればこういう体験ができるという打ち出しがうまくできると、来館者が増えるのではないか。
- ・データベースを構築する場合は、誰のためのものかを明確にしてしっかり考えるべき。
- ・いくつかの施設を回るスタンプラリーがあるとよい。

■事務連絡

(事務局) 次回の協議会を本年12月1日の15時30分から開催することを連絡。

■閉会